

GO VOTE NEWS 選挙にいこう!

Vol.13 NAGA-MIN 2021



10年以上前になります。まだ娘が小学校低学年だったか。ある選挙投票日の日曜日の朝。

私「投票に行くよ～。ついてきて～」
娘「え～、〇〇は行かん。めんどくさい。ママだけいってきてよ」

私「さみしいけんついてきてよ～」

娘「も～わかった～」

そんなやりとりしながら車に乗って投票の公民館へ。道中、選挙掲示板をまじまじとみながら

娘「ン～、誰にしようかな。あの人がいい人みたい。ママ誰に入れるか決めた？」

んんんん((+_+))?? もしや、、、

私「あ、〇〇はまだ小学生やけん投票できんよ。大人になったらできるよ」

娘「え? そうなの? な～んだ」

投票する気まんまんだった娘。

あんなこともあったな～と思い出しました。

あれから10年。そんな娘もいよいよ投票できる18歳。

20～30代の10人に3人程度しか投票にいかないという。思い返せば私自身もその頃選挙に興味はなかった。若いころは各政党の公約を読んだこともなかった。選挙カーでの女性のイメージや選挙ポスターの雰囲気がよいかどうかで決めていたと思う。小学生の娘と同じ決め方か、と苦笑い。あとはお世話になったから、と義理での決め方。いざ公約よんでもどの政党も良さげなことしか書いていない。ほんとなのかどうかわかりにくい。親になった今、子供たちが大人になったときのこの国を思うと変えてほしいこともやはり見えてきて、ニュースで政治のことも聞くようになった。国会中継がおもしろいと思うことさえでてきた。ぎんさんが国会中継を見ながら文句をいっていたのが思い出される。

そんな親が、これから娘にどうやって物事をいろんな視点からみれるか、本質を見極められるような眼をもっていつてもらえるか、伝えていけるものか少し悩む。

若いころは自分の生活が世界の中心。政治に興味を第一にもって、とは言えないがすこしづつ自分の将来を変えていけるせつかくの権利。使ってほしい。「たった一票あってもなくても一緒」ではなく「投票行ったら何か変わるかも」と期待できる国になってほしい。

さあ、これから娘にどう伝えていこうか、、、



2021年10月8日 担当：三浦ちひろ